

ねいの里 ホオホオニュース



ねいの里館長に就任して

富山県自然博物館 ねいの里館長
富永 宣宏



平成24年4月に新館長に就任しました。偉大な功績を残された湯浅前館長の後任ということで、大変なプレッシャーを感じておりますが、一生懸命自分なりに職責を全うしたいと考えております。自然博物館ねいの里は、昭和56年6月に開館いたしました。その開館準備にあたって自然保護課の新米職員であった私も、展示計画やフィールド整備のソフト対策についてお手伝いした記憶があります。当時は「身近な自然の再発見」をテーマに、里山と人間とのかかわり、里山に生息する動植物の学習を主眼に、環境教育の拠点を目指す施設としてスタートしました。現在もそのコンセプトは変わっていませんが、近年、クマやイノシシなど、人との間で軋轢のある動物が増加してきたことから、これらの動物を理解し、そのつきあい方などについても、広く普及していく必要があると考えています。また、ホクリクサンショウウオ、ハッチョウトンボやアサザなど、県内に生息生育している希少な動植物の保全、増殖に努めることも使命であると考えています。就任にあたって、私が最も職員に心がけてほしいのは、来館者に対する対応です。この施設が県民にとって必要な施設であり、一度訪れた人がまた来たくするような施設であり続けるためには、来園者の満足度を上げることが大切であると考えています。そのためには、ナチュラリストも含めて、来館者に対する挨拶やレクチャーなどの接客マナーが重要であり、併せてできるだけ来館者のニーズを取り入れた解説や展示手法を取り入れていくべきであると考えています。新米館長で、まだ具体的な運営方針について、しっかりとしたビジョンを描けていませんが、皆様方の協力を得ながら、今後のねいの里のあり方について方針を定めていきたいと考えています。

活動をふりかえり

新緑の里山ハイキング 5月3日(火) (自然塾の会行事)

5月の行事は、ぐるとねいの里をめぐるハイキングです。天気予報は小雨模様で、空を気にしながらのスタートです。コースは「ねいの里～吉谷トンネル～吉谷～平等～猫坂峠～ねいの里」までの約5kmです。参加者は21名、曇り空の下、コース脇の植物や、林の中から聞こえるキビタキの声を聞きながら観察を進めました。参加者にはナチュラリストも多く、植物の見分け方では、実物を採取して、葉の付き方、形などを比較していました。又食べられる野草も話題に上り、早速ノカンゾウの試食会が始まりました。始めて食べた人も多かったように思います。

心配した雨もふらず、気持ちの良いハイキングが続きます。猫坂峠に到着、お腹も空いて来たところで、皆さんの足取りも早くなった様な気がします。お昼には予定通りねいの里に到着、それぞれ美味しいお弁当を食べ、行事を終了しました。

記：長谷川 覚



ホトトギスに親しむ 6月3日(日) (ねいの里行事)

今年ホトトギスを中心とした自然観察会が初めて行われました。夏鳥であり、また、鳴き声の聞きなしとして「特許許可局」や「テッペンカケタカ」で有名なホトトギス。

観察会中は、ねいの里森の生態園の尾根でホトトギスの鳴き声を聞くことができ、また植物ではササユリなどの初夏の花を観察することができました。最後にいろいろ教室で観察会のまとめとホトトギスの生態や古事について学びました。今回は大人16名 小人6名の22名の方に参加して頂きました。



記：垣地 健太

竹アンドン作り 6月16日(土) (自然塾の会行事)

数日前から竹アンドン作り日の天気が気になり、当日は何としても晴れて欲しいものと念じていたが、念力が弱かったようで雨になってしまった。参加者が少ないだろうと予想していたが、予想通り少数で、今回は7名の参加者で女性4名、男性3名であった。

作業は7名と、ねいの里の職員の方4名の計11名で行われた。作業開始にあたって、事故防止と竹アンドン作成数が告げられた、節の上を斜めに切った小型のアンドン80個、節と節の間に、人の笑い顔を模したアンドン40個、その数を聞いたみんなは、え～！そんなに作れないよ？ と言いながらも、仕方がないから作れるだけ作り、1時半頃になったら作業を止めようよ！ 意見が一致して、それぞれが出来そうな作業を選んで作り始めた。

一方、女性陣の一部は豚汁を作る作業にかかった。作業が始まり要領がわかってくると、どんどん作業が捗り、11時頃には指示された個数を作り上げることが出来た、そのころには豚汁もぐつぐつと煮え、良い香りが付近一帯に広がり腹の虫も鳴き出しそうだった。働いた後のお昼はやはり美味しい！！豚汁も美味でした。来年度は多くの皆さんの参加をお願いします。

作成した竹アndonは、24日のヘイケボタル鑑賞会に使用され、皆さんの足元を照らしました。



記：松任 力 (富山県自然解説員)

囲炉裏教室とヘイケボタル観賞 6月24日(日) (ねいの里・自然塾の会共催行事)

まだ日差しが明るい夕暮れの駐車場から、炭焼き小屋へ向かう芝生の道は手作りの竹アンドン達が道案内をしてくれました。飛行場の滑走路のように並べられた道、さらに森の中には思わず微笑んでしまうキャラクターの竹アンドン達が出迎えてくれました。

ゲンジボタルとヘイケボタルの違いは？！正直、大きさが違うくらいしか知識がなかったのですが、囲炉裏教室の先生から特徴のある柄や、餌、繁殖場所の違いなどを教えて頂きました。参加した子ども達も楽しく質問に答えていたので、思いがけず森の中での楽しいひとときでした。

いよいよ辺りが薄暗くなってきて、ヘイケボタルのいる生息地へ、一匹・二匹…沢山いる！さらに奥の水辺へと足を運ぶと、まるで『森の宝石箱』の中を歩いているようでした。昔は(電気が無かったころ)嗜好品として蛍が利用されていたそうです。これからも変わらずに、この初夏の風物詩に出逢える。そんな自然環境を残していくことが、本当に大切なのだと改めて感じた観賞会でした。



記：渡邊 博美 (富山県自然解説員)

ちよっと豆知識

マンサク葉枯れ病について

自然博物館ねいの里 館長 富永宣宏

マルバマンサクは、春一番に黄色い可憐な花を咲かせることや、枝を使ってかんじきを作ること
で有名ですが、ここ数年、新芽が芽吹き、新緑になる頃、葉の一部が枯れる症状が発生しています。

まだ、木が枯れるまでの症状にはなっていませんが、今後被害が進めば枯れる木も出てくるので
はないかと心配しています。

この病気は、「マンサク葉枯れ病」といい、1998年に愛知県で初
めて発見されました。その後被害は拡大し、全国に広がりつつあり
ます。

現在、森林総合研究所や岐阜県森林科学研究所などで調査を行っ
ていますが、何らかの病原菌の影響であることは症状から推測でき
ています、明確な原因はまだ解明されていません。

いずれにしても、県内の里山からマンサクの木がなくなっていま
わないよう、早急な原因解明と防除対策の確立を願うばかりです。



今日のふくろう先生

吉井 純子さん (富山県自然解説員)

森は『?』の宝庫

私は森の中を散策している時に、「アレッ!今の鳴き声は?」「はて?この香りは?」「この葉っぱ
は何?」と思うことが多く『?』で頭の中が一杯になります。鳥はなかなか姿を見せてくれないし、
教科書通りに鳴いてもくれません。

蝶や蛾は素早く飛ぶので模様の確認が難しく、草花も必ずしも図鑑のような姿をしているとは限
りません。

図鑑やネットで調べて、やっと見つけた名前は忘れないので『?』が一つ消えますが、その場で
詳しい人に教えてもらった名前は、次に同じ物を見ても名前が出てこないの、いつまでたっても
『?』は消えません。

私は『?』を少なくするために同じ場所で同じ物を続けて観察することが大切だと思っています。
春に『?』だった草花も観察を続けていると、図鑑やネットの写真で見たことのある姿になり、「成
程!」と思ったこともあります。また、生育の早さや種の付き方を知り、自然の偉大さに感激する
ことがあります。

蛾の若齢幼虫は、図鑑やネットにあまり出ていないので、ときどき育てて観察することがありま
す。脱皮の前後で色や模様が異なり、脱皮して初めて名前が分かる
幼虫もいます。けれど、蛾の飼育はよく逃げられるので家族から大
ブーイングがあるのが悩みの種です。

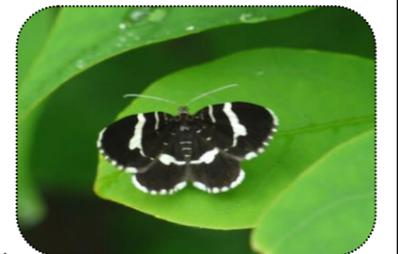
また、激しく動き回る鳥も、じっと待っていると姿を見せてくれ
ますし、いろいろな鳴き方をすることが分かります。そして、感動
的なシーンに出会えることもあります。

一羽のツバメが虫をフライイングキャッチするのはよく目にしま
すが、一度に多くのツバメが、狭い庭にやって来て、猛スピードで旋
回しながら発生した虫をキャッチし、口いっぱいになると巣に帰り、
またやって来る。それを虫がいなくなるまで繰り返すのです。

建物や仲間によつからないか、こちらがドキドキしてしまうほどの迫
力で、初めて見る光景に興奮しました。

「見る」のではなく「しっかり観ること」も私にとっては大事な『?』
解消法です。

記憶違い、物忘れ、思い込み防止の為に、忘れずにカメラ・双眼鏡・筆
記用具を持って『?』と新しい感動との出会いを求めて森へ出かけませ
んか!



シラフシロオビナミシャク
・・・何処で区切るのかな?



コツバメ

～ねいの里行事予定 案内～

(ねいの里ホームページで活動紹介しています。)

- 8月11日(土) 9:00 ~ 12:00
トンボの調査標本作り 場所 ねいの里展示館集合
- 8月26日(日) 18:30 ~ 20:00
クツワムシを愛でる 場所 ねいの里展示館集合
- 9月16日(日) 9:00 ~ 13:00
希少生物保護回復事業 場所 ねいの里展示館集合

参加希望者はねいの里までお申し込み下さい。

■ 特別展示

- 7月12日 ~ 8月6日 富山県自然保護協会環境写真展
- 7月13日 ~ 8月31日 県内のカブト・クワガタ展 8月8日 ~ 8月19日 環境月間写真展
- 9月1日 ~ 9月30日 キリギリスのお宿 9月1日 ~ 11月17日 ねいの里キノコ写真展

■ お願い ■

- 「生き物ふれあい自然塾の会」会員募集中
皆さんのお知り合いで、ねいの里をよくご利用される方がおられましたら、自然塾の会への入会をお薦め
下さい。会員の方にはねいの里会報「ふくろう通信」をお送りします。
- 会員の駐車場利用について
会員の方は、「ねいの里」行事への参加や施設の利用を前提に、ナチュラルリスト駐車場を利用する事が
出来ます。

発行 富山県自然博物館ねいの里館長 富永 宣宏

〒939-2632 富山県富山市婦中町吉住1-1

Tel 076-469-5252 / メールアドレス shizen@toyamap.or.jp

ホームページ <http://www.toyamap.or.jp/shizen/>

ねいの里展示館入り口にフォトフレーム導入

今年5月より、展示館入り口にフォトフレームを導入し、今、
ねいの里で見られる、花や動物をスライドショー形式で紹介して
います。また、ねいの里のフィールドマップに、園内での見所
を記入した「みどころ案内」も置いてありますので、皆さんぜひ
ご利用ください。

